

児童の作品例

①<都節音階 作品例>

・前奏～ABAB（同じ旋律の反復）

A児：四分音符でだんだん上がっていく。

B児：十六分音符の細かいリズムを取り入れながら、だんだん下がっていく。

合いの手：重音や装飾音のようなリズムを取り入れながら、合いの手を変化させている。

低音：A児とB児の呼びかけとこたえと同じ音の動き方を使って、2分音符の旋律を反復している。

②<民謡音階 作品例>

・ ABAC

A 児：高音部の五音を使用して、上がって下がる旋律を反復。

B 児：A 児と対比するように低音部の五音を使用してだんだん上がる。

C 児：A 児と同様に高音部の五音を使用してだんだん下がる。

合いの手：重音を用いて、オクターブを変える。

低音：5度音程の重音を使って、呼びかけとこたえと同じリズムの旋律をつくっている。

③<琉球音階 作品例>

The image shows a musical score for '琉球音階' (Ryūkyū Onkai). It consists of several staves. The top two staves are for '合いの手' (Chorus) and '呼びかけとこたえ' (Call and Response), both in treble clef. The third staff is for '低音' (Bass) in bass clef. Below this are three systems of staves for children's parts. The first system shows 'A 児' (Child A) in treble clef, with a black box highlighting a melodic phrase. The second system shows 'B 児' (Child B) in treble clef, with a red box highlighting a melodic phrase. The third system shows 'C 児' (Child C) in treble clef, with a red box highlighting a melodic phrase. The bass line continues throughout, providing a rhythmic and harmonic foundation.

・ 前奏～ABAC

A 児：四分音符で上がったたり下がったりする旋律。

B 児：八分音符を取り入れながら、山を描くような動きの旋律をつくっている。

C 児：B 児のリズムと逆行するようにしながら、同じ音の動き方の旋律をつくっている。

合いの手：シンコーペーションと八分音符でリズムの変化を生み出している。

低音：重音の上の音が、下がったり上がったたりする旋律

○授業後の児童の振り返り

- ・一つの旋律でも、色々旋律が合わさると、きれいな音になる。
- ・音階が少し変わっただけで音楽の雰囲気が変わったのでびっくりした。
- ・主な音が変わると音楽がすごく変わっていてすごくびっくりしました。
- ・音をとばさずにつくるのは、ただ上がったたり下がったりするのしか思いつかなくて少し難しかったけど、音を繰り返したりするなどの工夫をして良い旋律をつくることができました。そして、音階が違うだけで全く旋律の雰囲気が違うなと思いました。